

あなたは今 幸せですか

県民の「世帯主」として 認知症対策を考える



県歯科医師会長
村山 利之さん

日本は世界でも例を見ない超高齢社会を迎えつつある。医療や行政、介護、家庭など、人生100年時代の「現場」で大きな課題となっているのが認知症対策だ。最近の研究では口の中を清潔に保つことが、認知症リスクの予防につながる事が分かってきた。幸せな長寿社会を実現するために、歯科口腔保健が果たすべき役割とは何か。県歯科保健大会(28日)を前に、今年7月に就任したばかりの山本一太知事と県歯科医師会の村山利之会長が、それぞれの立場で思いを語り合った。

(聞き手・上毛新聞社専務取締役 吉田典之)

県知事

山本 一太さん



対 談

県民の幸福へ全力疾走

山本知事

山本知事は7月の知事選で、歴代最多となる57万6935票を獲得して初当選されました。新知事への県民の期待の大きさを感ずる。

山本知事 まず、この秋の一連の台風・大雨でお亡くなりになった方に心よりお悔やみ申し上げます。また、被災された方々に對しまして、お見舞いを申し上げます。

その上で、歴代最多得票の当選はともうれしく、その分だけ責任を感じています。どれだ

けの民意に支持されたかは、知事としてリーダーシップを発揮するための基盤になります。当然、選直後、安倍首相や菅官房長官にお目にした際も、最初から「お目にしたのは、最多得票で良かったね」という言葉でした。

村山会長 国會議員時代は第2次安倍内閣で沖縄北方担当大臣を務め、参院予算委員長や自民党参院政務会長などを歴任されました。国會議員4期24年の経験と人脈をフル活用して、今は県知事として県民を導く

令和という新時代のリーダーを目指していただきたいと思えます。所信表明でも国會議員は法律や制度を作るルールメーカー、知事は現場で汗をかくプレイヤー、役割の違いを指摘され、県民に寄り添う覚悟を示されています。

山本知事 国會議員の仕事はダイナミックで、もちろんやりがいもありました。しかし知事に就任してから3カ月は、これまでの人生になかった充実した日々を過ごしています。自分

は前向きな性格なのでどんな仕事に関わっても幸せを感じられるタイプですが、群馬県民のために、群馬県のリーダーとして働ける喜び、そして醍醐味は何にも代え難いものだと感じています。

村山会長 新知事の誕生で県庁内に良い緊張感が生まれ、人口減少社会は、これまで常識では解決できない数多くの課題を抱えています。既存の枠組みにとられない山本知事の姿勢に、県庁内の期待も高ま

ついていると思われます。

山本知事 知事の最も大切なリソースは職員です。今までの知事さんと私では仕事の優先順位や日程など、働き方のスタイルがまったく違うと思われ、各部署がスピード感を持って対応してくれています。課題ややりたいことが次々と生まれていますが、県庁の職員は能力が高く、彼らと一緒に必ず成し遂げられると信じています。

所信表明では、公約でも掲げた五つの重点施策に取り組む

決意を示されました。現在も同時多発的にさまざまな事業が立ち上がっています。

山本知事 注目されていることの1つに、県庁32階展望ホールに設置する動画スタジオがあります。この事業は単なる箱物ではなく、ポイント設置場所と放送する中身にあると考えています。知事と大臣の対談番組はもうある、職員もスタジオを使って自ら番組制作に関わってもらいます。部局ごとの担当者が動画で事業内容を分かりやすく伝えるようになれば、全国でも類を見ない高い情報発信力を持つ県庁になります。村山会長も歯科口腔保健の取り組みや口腔ケアの重要性について、これから発信していただきたい。

認知症リスクを 口腔ケアで予防

山本知事 県内の高齢者の方は2005年には58万2千人となり、今後は一人暮らしの高齢者や認知症の方の急増が見込まれます。認知症の高齢者については15年に8万人以上と推計され、25年には11万人以上になると予測されています。

政府がまとめた認知症施策の新たな大綱では、認知症の方が暮らしやすい社会を目指す。共

生」と、発症や進行を遅らせる「予防」を二本柱として掲げられています。認知症の方やご家族を地域でどう支えるかに加えて、いかに認知症を「予防」するかが国家規模の重要な課題となっています。

村山会長 私、2005年問題(同年1月に団塊の世代が75歳以上となり、後期高齢者が急増する際に起こる諸問題)と、その先に待ち受ける認知症対策が最重要課題だと考えます。

認知症の最新研究では何が分かってきましたか。

村山会長 研究の結果、アルツハイマー型認知症の原因として、生」と、発症や進行を遅らせる「予防」を二本柱として掲げられています。認知症の方やご家族を地域でどう支えるかに加えて、いかに認知症を「予防」するかが国家規模の重要な課題となっています。

村山会長 私、2005年問題(同年1月に団塊の世代が75歳以上となり、後期高齢者が急増する際に起こる諸問題)と、その先に待ち受ける認知症対策が最重要課題だと考えます。

認知症の最新研究では何が分かってきましたか。

山本知事 知事の最も重要な仕事は、県民の幸福度を高めることです。認知症の発症はご本人の尊厳や家族の方との関係に影響を及ぼしますので、全力で対策に臨みたいと思います。現在、県としては、認知症の普及啓発、理解促進のために市町村に

血液の中に放出される新たな毛細胞と神経細胞が生み出されることを促します。その結果、脳内ネットワークのつながりを強くし、認知症への移行を食い止めるだけでなく、正常な状態へ戻すこともできると思えるようになってきました。

山本知事 歯は昔から大切にしていた。知事になられて改めて、歯と口の健康を含めてご自身の健康について考えをお聞かせください。

山本知事 歯は昔から大切にしていた。知事になられて改めて、歯と口の健康を含めてご自身の健康について考えをお聞かせください。

山本知事 歯は昔から大切にしていた。知事になられて改めて、歯と口の健康を含めてご自身の健康について考えをお聞かせください。

健康あつてこそその幸せ

村山会長



口腔ケアの大切さについて話し合った山本知事(右)と村山会長

医療、地域などが連携しなければできません。歯科口腔保健の分野では、80歳で自分の歯を20本以上残す「8020」(はち・まる・にじゅう)運動で県と歯科医師会が連携し、県民運動として成功させた実績があります。

村山会長 「80歳になっても20本以上自分の歯を保つ」がスローガンの8020運動は昨年、30周年の節目を迎えました。「新8020」では本数だけでなく、的にせず、しっかり噛める歯を残すことを目指しています。

認知症対策で歩くことの重要性を挙げさせていたいただきましたが、歩くためには噛み合わせが重要です。歯周病で歯がぐらぐらしていたり、詰めもの、かぶせものが取れたりした状態では真

知事さんにおかれましては、今後も県民とともに口腔ケアを心掛けて、しっかりと噛んで走って、若々しさを維持していただき、健康増進のイメージリーダーとして、また群馬の世帯主として、県民の幸せのために長く頑張ってくださいと思います。

令和元年度
第29回 群馬県歯科保健大会
～健康寿命を延ばすために～

県民公開講座

2019年
11月9日(土)
【受付13:30～14:00～16:00】

日 時

場 所

群馬県歯科医師会館
前橋市大友町1-5-17 TEL.027-252-0391
【駐車場】群馬県歯科医師会館 駐車場 【定員200名】
駐車場には限りがございますので、乗り合わせまたは公共交通機関のご利用をご検討ください。
なお、駐車台数によりましては、送込み駐車となりますので、ご了承ください。

主 催 : 群馬県・群馬県教育委員会・群馬県歯科医師会・群馬県学校歯科医会

健康寿命の延伸と「未病」という
新時代の健康観について

元厚生労働省医政局長
大谷 泰夫 先生

講 師

入場無料

群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

群馬県歯科医師会館

TEL.027-252-0391